

国立国語研究所学術情報リポジトリ

国立国語研究所研究活動一覧（平成10年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2024-11-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/0002000342

国立国語研究所
研究活動一覽
(平成10年度)

Annual Report of Research Activities

The National Language Research Institute

April 1998 - March 1999

国立国語研究所

正 誤 表

ページ	誤	正
30	「日本語と中国語の省略疑問文「αハ?」「α ne ?」	「日本語と中国語の省略疑問文「αハ?」「α ne ?」」
30	『国語学』196	『国語学』192
31	国際教育振興協会専門委員	日本語教育振興協会専門委員

追加

51 ページ

【公開討論会記録】

特別研究「日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成」会議要録

公開討論会(1)「日本語教育のための研究課題」

平成 10 年 9 月

国立国語研究所
研究活動一覽
(平成10年度)

Annual Report of Research Activities

The National Language Research Institute

April 1998 - March 1999

国立国語研究所

『国立国語研究所研究活動一覧（平成10年度）』について

国立国語研究所では、平成7から9年にかけて、『研究発表資料集』を作成してきましたが、その機能を整理・継承する形で作成したのが、この『研究活動一覧』です。この一覧は(1)所内外へ向けて研究職員の研究活動を公開すること、(2)外部評価の補助資料とすること、という目的で作成しています。従来の『研究発表資料集』は、当該期間における研究職員の研究論文リストとその原文の転載に重点を置いていました。それに対し、この『研究活動一覧』では、論文のリストだけでなく、個々の研究職員が研究所で行っている研究・事業の課題名やその他の所内での業務などを列挙し、研究職員がどのような研究活動を行っているかを提示することに重点を置きました。研究論文等の具体的な内容については、個別の論文にあたられることをお願いします。

なお、巻末には、研究部会議(研究職員による研究所内部の会議)における研究発表、所内の委員会ならびに委員、見学者、平成10年度研究所刊行物などについて、それぞれの一覧を掲載しています。

また、この『研究活動一覧』と同様のものは、研究所のホームページにも掲載する予定です。どうぞ、そちらもご利用ください。

凡 例

- ・ 部を単位として、各研究職員の研究活動を示しています。
- ・ 各研究職員の活動内容の項目分類は、数字・アルファベットで示しています。それぞれの指すところは、各ページの下に掲載しています。
- ・ 年単位(1～12月)で編集を行ってきた平成9年までの『研究発表資料集』との連続性を考慮して、項目3.「成果公表活動」のみ平成10年1月～平成11年3月を対象期間としました。それ以外は、委員会一覧の一部を除き、基本的に年度単位(4～3月)に従い、平成10年4月～平成11年3月を対象期間としています。ただし、平成10年4月1日以降に職員になった者については、すべての項目について採用日から平成11年3月までを対象期間としています。
- ・ 研究職員によっては、特定の欄が設けられていないことがありますが、これは該当する情報がなかったことを示しています。

※ この一覧に挙げたもののほかに所員全員で対応しているものに、ことばの質問・問い合わせ・見学者への対応などがあります。

※ この一覧は、『国立国語研究所研究活動一覧』作成委員会が、基本的に各研究職員から寄せられた情報をもとに編集しました。個々人の判断などで、必ずしも網羅的ではない面や不統一があります。利用にあたってはその点にご留意ください。

目 次

目 次

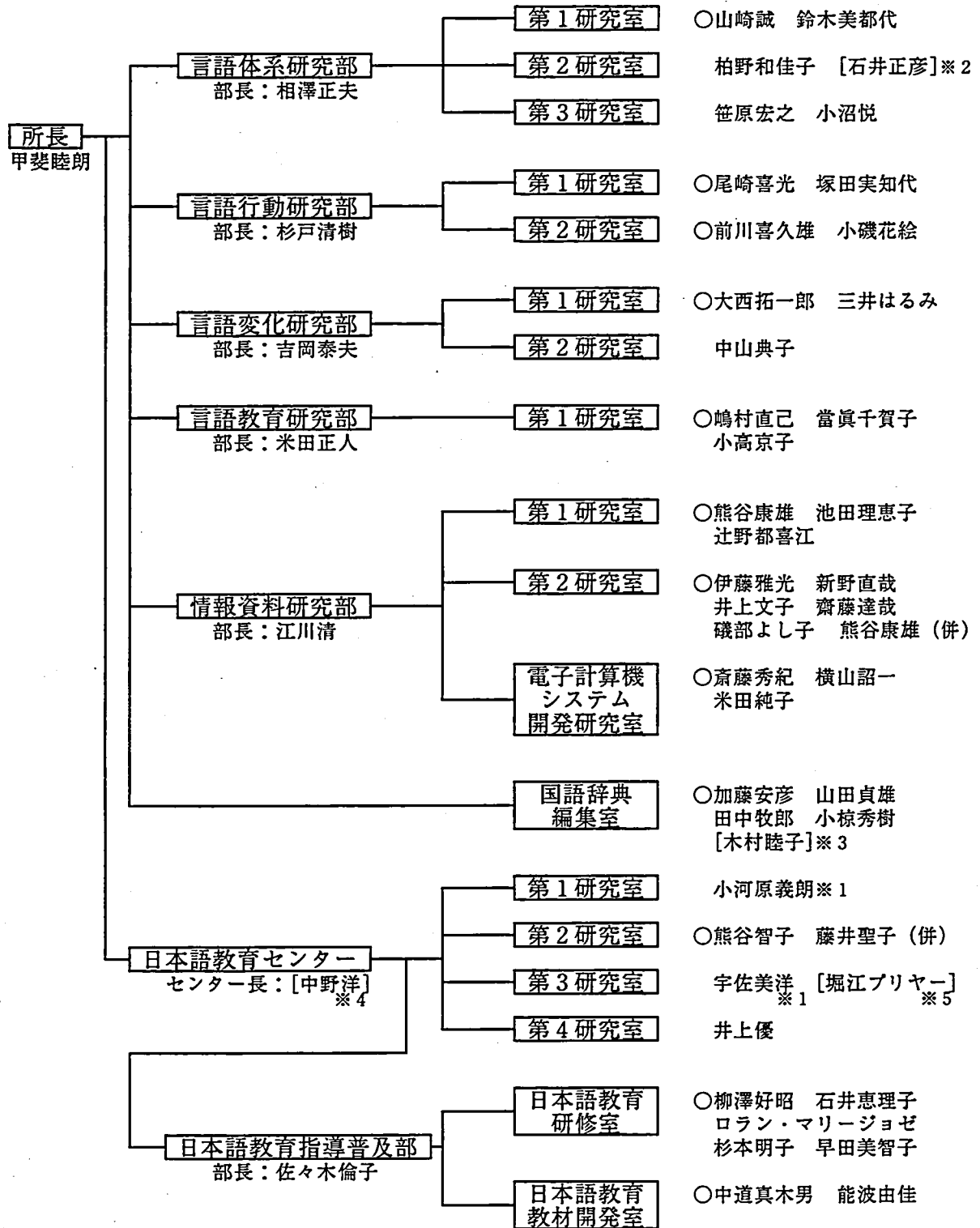
「国立国語研究所研究活動一覧（平成 10 年度）」について

凡 例

研究機構	3
平成 10 年度研究活動一覧	7
所長	7
言語体系研究部	8
言語行動研究部	12
言語変化研究部	15
言語教育研究部	17
情報資料研究部	19
国語辞典編集室	25
日本語教育センター	28
日本語教育センター 日本語教育指導普及部	31
平成 10 年度研究部会議・研究発表一覧	39
平成 10 年度所内委員会委員一覧	40
平成 10 年度見学者一覧	41
平成 10 年度招へい研究員一覧	42
平成 10 年度外国人研究員等受入一覧	43
平成 10 年度外国出張一覧	45
平成 10 年度国立国語研究所刊行物一覧	51

研 究 機 構

研究機構 (平成12年1月1日現在)



(注1) ○印は室長

(注2) ※1 平成11年4月1日以降に職員になった者で、今回の採録対象とならない者

※2 平成11年10月1日転出

※3 平成11年3月31日停年退官

※4 平成11年12月21日死去

※5 平成10年9月1日転出

平成10年度
研究活動一覽

所長

甲斐睦朗

2. B. 「高校国語教育 — 21世紀の新方向」(共監修) 明治書院 1999年3月
 「わかむらさき — 源氏物語の源流を求めて—」 明治書院 1998年10月
- C. 「21世紀への提言・国語教育の改善に向けて『連載からとらえ直した国語教育 — 日本語教育との連携を中心に』」『日本語学』臨時増刊号 明治書院 1998年1月
 「総合単元『豊かな読書・表現活動を』の目指すところ — 1年生の宮澤賢治の学習を中心に—」『中学校国語教育相談室』20 光村図書 1998年2月
 「特集2・資料と解説解説・国語科の新しい方向」『実践国語研究』183 明治図書 1998年4月
 「21世紀への国語教室」(連載全5回)『実践国語研究』 明治図書 1998年4月
 「『日本語教室の実践と日本語教育のあり方』の編集」(「本冊編集の意図・目的」) 『実践国語研究』別冊184 明治図書 1998年6月
 「連載・話しことば その研究と教育を結ぶ 13『これからの話しことば教育とその基礎研究の必要性』」『日本語学』17-7 明治書院 1998年6月
 「国語教育と日本語教育の連携を考える」『月刊国語教育研究』316 日本国語教育学会 1998年8月
 「高校国語教育 — 21世紀の新方向 総説『21世紀に期待される言語能力』」 明治書院 1999年3月
 「新学習指導要領の概要」1~4『小学校国語教育相談室』 光村図書 1999年3月
 「敬語研究と敬語指導」広島県高等学校教育研究会国語部会『年報』40 1999年3月
4. ア. 国語審議会委員(第3委員会)
 学術審議会学術用語分科会専門委員
 学術審議会科学研究費分科会審査第一部会人文・社会系小委員会委員
 国文学研究資料館評議員会評議員
 農林水産省命名登録審査会委員
 (社)国際日本語普及協会評議員会評議員
 (財)教育研究振興会評議員
 (財)博報児童教育振興会博報賞審査委員会委員長
 日本貿易振興会ビジネス日本語能力テスト協力機関会議委員
 旺文社全国学芸科学コンクール最終審査委員会委員
 国際交流基金日本語国際センター事業協力委員会委員
 国際交流基金北京日本学センター協力委員会委員
- イ. 全国大学国語教育学会理事
 表現学会理事

※ 項目分類の記号については、次ページ下欄を参照。

言語体系研究部

相澤正夫（部長）

1. ・日本人の話しことばに関する総合的研究
・音声によるパラ言語情報の伝達メカニズムに関する実験的研究
（科学研究費 基盤研究（B）分担者）
2. A. “An Introduction to the National Language Research Institute: A Sketch of Its Achievements (Fourth Edition)”（共編） 国立国語研究所 1999年3月
B. 「言葉に関する問答集(新ことばシリーズ10) 一意味の似た言葉一」(共著) 文化庁 1999年3月
C. 「新刊・寸感」『日本語学』17-1 明治書院 1998年1月
「音韻(理論・現代)」『国語学』193 国語学会 1998年6月
「新刊・寸感」『日本語学』17-8 明治書院 1998年7月
「新刊・寸感」『日本語学』18-1 明治書院 1999年1月
E. 「『声』と『口調』からみた言語行動」
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
3. ア. 国立国語研究所創立50周年記念事業
4. イ. 国語学会編集委員・大会運営委員
日本音声学会評議員・編集委員
査読 国内雑誌3件
ウ. 大東文化大学外国語学部日本語学科 非常勤講師

山崎誠（第1研究室室長）

1. ・複合辞の意味・用法の記述的研究
・日本語教育総合シラバスの構築と教材開発指針の作成
2. A. 国立国語研究所報告115「テレビ放送の語彙調査Ⅲ 一計量的分析一」
大日本図書 1999年3月
E. 「コーパスを利用した語法研究」(共同発表)
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
F. 「コーパスに見る類義的複合辞の用法差 一義務・責任等を表す『なければなら
ない』『なくてはならない』等の複合辞について一」
第3回複合辞研究会 国立国語研究所 1998年12月
3. イ. 新プロニューズレターの編集(第7号 1999年1月)
【第5回国立国語研究所国際シンポジウム報告書】の編集
4. イ. 計量国語学会委員
査読 国内雑誌4件

鈴木美都代（第1研究室研究員）

3. イ. 【日本語科学】

1. 担当研究・事業課題名(科研費も含む)
2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もととするもの B. 所員が執筆・編集した単行本 C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文 E. 口頭・ポスター発表(予稿集あり) F. 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

石井正彦（第2研究室室長） ※平成11年10月1日転出

1. ・語の使用頻度を規定する諸要因についての基礎的研究
2. A. 国立国語研究所報告 115「テレビ放送の語彙調査Ⅲ —計量的分析—」
大日本図書 1999年3月
- B. 「日本語研究法〔古代語編〕」青葉ことばの会編 おうふう 1998年4月
- C. 「テレビ放送における呼称」(共著)「日本語学」17-9 明治書院 1998年8月
「語彙の調査」【日本語学】17-10 明治書院 1998年9月
「歌謡曲の聞き手はどんな単語を好むか」【表現研究】69 表現学会
1999年3月
- E. 「臨時一語発生の一要因 —「~の」連続の回避—」計量国語学会第42回大会
1998年9月
「テレビ放送の語彙調査」(共同発表)
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
4. ア. ISO / TC37 国内委員会委員
イ. 国語学会編集委員
【国立国語研究所創立50周年記念誌】

柏野和佳子（第2研究室研究員） ※平成10年6月1日採用

1. ・語の使用頻度を規定する諸要因についての基礎的研究
2. C. 「IPAL 名詞辞書による多義性解消のためのコロケーションの分析」(共著)
【情報処理学会論文誌】39-6 情報処理学会 1998年6月
「IPAL 名詞辞書における多義構造の記述」(共著)【情報処理学会論文誌】39-9
情報処理学会 1998年9月
「多義構造を辞典に書く」(共著)【日本語学】17-14 明治書院 1998年12月
- D. 「意味タグ付与」(共著)
【研究会開発用知的資源タグ付きテキストコーパス報告書】
技術研究組合新情報処理開発機構 1999年3月
- E. “The RWC Text Databases” (共同発表)
The First International Conference on Language Resource and Evaluation
スペイン(グラナダ) 1998年8月
「計算機用日本語生成辞書 IPAL (SURFACE/DEEP) の研究」(共同発表)
情報処理振興事業協会第17回研究発表会 虎ノ門パストラル 1998年10月
「曖昧性解消過程解明のための多義語の分析」
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
「計算機用日本語生成辞書 IPAL (SURFACE/DEEP) の試作」(共同発表)
情報処理学会第130回自然言語処理研究会 ATR 1999年3月
「解析と生成のための共起情報の記述方法」言語処理学会第5回年次大会
電気通信大学 1999年3月
4. ア. 情報処理振興事業協会(IPA)独創的先進的情報技術に係わる研究開発「計算機用
日本語生成辞書 IPAL (SURFACE/DEEP) の研究」プロジェクト
新情報処理開発機構(RWC)「コーパスの作成と公開に関するワーキンググルー
プ」

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支
援 4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

笹原宏之（第3研究室研究員）

1.
 - ・日本語の変化予測についての基礎的研究
 - ・日本全国における小地名使用漢字に関する調査研究
（科学研究費 奨励研究（A）代表者）
 - ・国際社会における日本語についての総合的研究（科学研究費 創成的基礎研究）
研究班4 情報発信のための言語資源の整備に関する研究（分担者）
 - ・J I S 漢字関連資料のデータベース化（データベース科学研究費 分担者）

2. A. 『「太陽」コーパスの漢字処理 —「太陽」1901の漢字調査—』（共著）
新プロ「日本語」研究成果刊行物 国立国語研究所 1999年2月
- B. 『新聞電子メディアの漢字 朝日新聞CD-ROMによる漢字頻度表』（共著）
（国立国語研究所プロジェクト選書1）三省堂 1998年7月
- C. 「漢字と片仮名・平仮名」『日本医事新報』3834号 日本医事新報社
1998年1月
「漢字のユートピア」『東亜』霞山会 1998年2月
『「朝日新聞」のCD-ROMと紙面における幽霊文字と辞書非掲載字
—「JIS X 0208」の漢字を中心に—』（共著）『計量国語学』21巻4号
1998年3月
「漢字教育と表外字」『日本語学』17-4 1998年4月
『「町」と「村」の読み方・読み分け』『日本医事新報』3867号
日本医事新報社 1998年6月
「国語国文学界の展望 近代・現代（音韻・文字・表記）」
『文学・語学』16 1998年10月
『「漢字の民俗誌」（言語圏α 書評）」『月刊言語』10月号 大修館書店
1998年10月
「漢字のつくりに着目した漢和辞典」『日本医事新報』3893号 日本医事新報社
1998年12月
「異体字選択に影響する要因」（共著）『計量国語学』21巻7号 1998年12月
「旧字体が好まれる漢字の同定 ～女子大学生を対象にした調査」（共著）
「今昔文字鏡 TTF版」『文字鏡研究会会報』2 1999年1月
「新聞記事データベースにおける「楨（新）」の消失現象」（共著）
『人文科学と情報処理』20 1999年3月
- D. 「元禄十四年刊『俗字正誤鈔』における「正字」「俗字」「誤字」とその典拠」
『国語文字史の研究』4 和泉書院 1998年8月
- E. 「異体字選択に影響する要因の分析」（共同発表）社会言語科学会
1998年1月
「異体字に対する「好み」と「なじみ」の相関関係」（共同発表）
統計数理研究所シンポジウム 1998年3月
「旧字体が好まれる漢字の同定 —女子大学生を対象にした調査—」（共同発表）
統計数理研究所シンポジウム 1998年3月
「漢字圏における字体の暗合と衝突」第12回 UNICOD/ISO 10646 国際会議
1998年4月
「Development of a Japanese Kanji Character Frequency List」（共同発表）
第12回 UNICOD/ISO 10646 国際会議 1998年4月
『「朝日新聞」におけるJ I S 外漢字』（共同発表）計量国語学会 1998年9月
「漢字の規範分類別に求めた平均頻度 —新聞電子メディアを対象に一」
（共同発表）計量国語学会 1998年9月
「人間は「桧」と「檜」のいずれを好むか —異体字認知の研究—」（共同発表）
日本心理学会第62回大会 1998年10月
「現代日本語の文字・表記」（共同発表）
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月

1. 担当研究・事業課題名（科研費も含む）

2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もとするもの B. 所員が執筆・編集した単行本 C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文 E. 口頭・ポスター発表（予稿集あり） F. 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

- 「漢字字体に対する女子大学生の接触頻度」
 京都大学大型計算機センター第 62 回研究セミナー「東洋学へのコンピュータ
 利用」 1999 年 3 月
- F. 「地名表記漢字の方言資料としての可能性 — 「畦」「畔」の訓「あぜ」「くね」
 「くろ」「はぜ」「ぼた」「むろ」等の分布—
 国立国語研究所文字・表記研究会 1998 年 3 月
 「[谷]の訓「たに」・「や」の東西差とその歴史」
 国立国語研究所文字・表記研究会 1999 年 3 月
4. ア. 符号化文字集合（J I S）調査研究委員会委員
 イ. 社団法人情報処理学会文字コード標準体系検討専門委員会委員
 ウ. 文化女子大学文学部・短期大学部 非常勤講師

小沼悦（第 3 研究室研究補助員） ※平成10年6月1日言語体系研究部第 2 研究室研究補助員から配置換

1. ・日本語の変化予測についての基礎的研究
2. A. 国立国語研究所報告 115「テレビ放送の語彙調査Ⅲ —計量的分析—」
 大日本図書 1999 年 3 月
 C. 「テレビ放送における呼称」（共著）『日本語学』17-9 明治書院 1998 年 8 月
 E. 「現代日本語の文字・表記」（共同発表）
 国立国語研究所創立 50 周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998 年 12 月
 「テレビ放送の語彙調査」（共同発表）
 国立国語研究所創立 50 周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998 年 12 月
3. ア. 国立国語研究所創立 50 周年記念事業

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支
 援 4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

言語行動研究部

杉戸清樹（部長）

1.
 - ・学校の中の敬語についての社会言語学的研究
 - ・日本人の話しことばに関する総合的研究
 - ・国際社会における日本語についての総合的研究(科学研究費 創成的基礎研究) 研究班2 言語事象を中心とする我が国をとりまく文化摩擦の研究(分担者)
 - ・日常談話の生成・受容における「構え」の言語行動論的研究 (科学研究費基盤研究 (C) 代表者)
2. A. 「順番を待つ姿勢」『新プロ「日本語」研究論文集』1 国立国語研究所 1998年8月
「日常談話の生成における「構え」の言語行動論的研究」 (科研費研究成果報告書) 国立国語研究所 1999年3月
- B. 「言葉に関する問答集(新「ことば」シリーズ10 一意味の似た言葉一)」 (編集及び分担執筆) 文化庁 1999年3月
- C. 「社会を立ち現れさせる言葉: 社会言語学」『月刊言語』27-6 大修館書店 1998年6月
- D. 「解説」『大名古屋辞典』(角川文庫) 清水義範著 角川書店 1998年3月
- E. 「敬意表現の在り方」文化庁国語施策懇談会 国際交流基金国際会議場 1998年9月
「待遇表現の言語行動論的研究」(共同発表) 国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
「言語行動における文化摩擦」第6回国立国語研究所国際シンポジウム 国連大学 1998年12月
- F. 「言語研究の立場から」日本語教育学会日本語教育セミナー 昭和女子大 1998年8月
3. ア. 国立国語研究所創立50周年記念事業(記念誌座談会企画連絡等) 国立国語研究所創立50周年記念シンポジウム(企画・司会)
4. ア. 文化庁「ことば」シリーズ企画委員会委員
文化庁「美しく豊かな日本語」普及ビデオ企画委員会委員(副主査)
NHK放送用語委員会専門委員
- イ. 国語学会評議員
社会言語科学会理事・事業委員長
日本音声学会国際交流委員会委員
日本言語学会委員(首都圏)
査読 国内雑誌3件
- ウ. 早稲田大学大学院文学研究科 非常勤講師
大阪大学大学院文学研究科 非常勤講師
5. 「現代社会の敬語意識: 言語行動としての敬意表現」 名古屋市立高等学校国語科研修会講演 名古屋市研修センター 1998年10月
NHK総合テレビ「ことばてれび」「クローズアップ現代」出演

1. 担当研究・事業課題名(科研費も含む)

2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もととするもの B. 所員が執筆・編集した単行本 C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文 E. 口頭・ポスター発表(予稿集あり) F. 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

尾崎喜光 (第1研究室室長)

1.
 - ・学校の中の敬語についての社会言語学的研究
 - ・国際社会における日本語についての総合的研究(科学研究費 創成的基礎研究) 第2班 言語事象を中心とする我が国をとりまく文化摩擦の研究(協力者)
 - ・日常談話の生成・受容における「構え」の言語行動論的研究 (科学研究費 基盤研究 (C) 分担者)
2. A. 「ブラジルでの調査を終えて」
 「『国際社会における日本語についての総合的研究』研究論文集」1
 (科研費[新プロ]報告書) 国立国語研究所 1998年8月
 「日本語社会における言語行動の多様性」(新プロ「日本語」)
 国立国語研究所 1999年3月
 - C. 「女性のことばの変遷 一文末・コト・テヨ・ダワを中心に」(共著)
 「日本語学」17-6 明治書院 1998年5月
 「生徒たちはどう呼ばれたいと思っているか」『日本語学』17-9 明治書院
 1998年8月
 「中学・高校のクラブ活動・部活動における呼称」(共著)『日本語学』17-9
 明治書院 1998年8月
 - E. 「自然談話資料に見る終助詞「よ」「ね」の使用の男女差」
 第1回社会言語科学大会 学習院大学 1998年1月
4. イ. 社会言語科学会理事・事務局委員
 ウ. 文教大学文学部 非常勤講師
 上智大学外国語学部 非常勤講師
5. 「日本語の美 一美しさの観点から学ぶ日本語一」
 荒川区成人講座〈言葉の文化編〉シリーズ「現代人のための日本語学講座」
 荒川区 1998年12月

塚田実知代 (第1研究室研究員)

1.
 - ・学校の中の敬語についての社会言語学的研究
 - ・国際社会における日本語についての総合的研究(科学研究費 創成的基礎研究) 第2班 言語事象を中心とする我が国をとりまく文化摩擦の研究(協力者)
 - ・日常談話の生成・受容における「構え」の言語行動論的研究 (科学研究費 基盤研究 (C) 分担者)
2. A. 「日本語社会における言語行動の多様性」(新プロ「日本語」)
 国立国語研究所 1999年3月
 - C. 「中学・高校のクラブ活動・部活動における呼称」(共著)『日本語学』17-9
 明治書院 1998年8月
 - E. 「待遇表現の言語行動論的研究」(共同発表)
 国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
3. ア. 国立国語研究所創立50周年記念シンポジウム(事務局)
 イ. 「日本語科学」

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
 4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

前川喜久雄（第2研究室室長）

1.
 - ・日本人の話しことばに関する総合的研究
 - ・音声によるパラ言語情報の伝達メカニズムに関する実験的研究
（科学研究費 基盤研究（B）代表者）
 - ・発声力学に基づくタスクプランニング機構の解明
（戦略的基礎研究推進事業 分担者）
2. B. 岩波講座「言語の科学」2「音声」（共著）岩波書店 1998年5月
- C. 「韻律とコミュニケーション」『日本音響学会誌』55-2 1999年2月
「音声対話コーパスの共有化へ向けて」（共著）『人工知能学会誌』14-2
1999年3月
- E. 「フォーカスが下顎の運動におよぼす影響」（共同発表）
日本音響学会（平成10年春） 1998年3月
“Phonetic and phonological characteristics of paralinguistic information in spoken
Japanese” Proc. ICSLP98 Sydney 1998年12月
「パラ言語情報の知覚 一同定データの多次元尺度構成法による分析」
（共同発表）日本音響学会（平成11年春） 1999年3月
3. ア. 国立国語研究所創立50周年記念事業
4. ア. 医療研修推進財団委員
- イ. 日本音声学会評議員
日本音声学会理事（編集委員長）
日本音響学会査読委員
日本音響学会音響用語辞典執筆委員
人工知能学会「談話タグワーキンググループ」委員
電子情報通信学会第3種研究会「話し言葉処理」幹事
査読 国内雑誌12件 海外雑誌1件
- ウ. 東京都立大学大学院人文科学研究科 非常勤講師

小磯花絵（第2研究室研究員） ※平成10年10月1日採用

1.
 - ・日本人の話しことばに関する総合的研究
2. C. 「日本語地図課題対話コーパスの設計と特徴」（共著）『人工知能学会誌』14-2
1999年3月
「音声対話に対する談話セグメントのタグ方式の検討」（共著）
『人工知能学会誌』14-2 1999年3月
- E. 「対話映像音声資料の収録とデータ化の方法」（共同発表）
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
「やり取りに基づく会話相互作用の構造にみられる韻律特徴の分析」（共同発表）
言語処理学会 電気通信大学 1999年3月
- F. 「対話データの収録方法 一千葉大学地図課題対話を例にして一」
社会言語科学会春のシンポジウム 1999年3月

1. 担当研究・事業課題名（科研費も含む）

2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もとするもの B. 所員が執筆・編集した単行本 C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文 E. 口頭・ポスター発表（予稿集あり） F. 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

言語変化研究部

吉岡泰夫 (部長)

1.
 - ・日本人の話しことばに関する総合的研究
 - ・方言文法・表現法地図作成のための研究
 - ・学校の中の敬語についての社会言語学的研究
 - ・音声によるパラ言語情報の伝達メカニズムに関する実験的研究
(科学研究費 基盤研究 (B) 分担者)
 - ・日常談話の生成・受容における「構え」の言語行動論的研究
(科学研究費 基盤研究 (C) 分担者)
 - ・西日本におけるネオ方言の実態に関する調査研究
(科学研究費 基盤研究 (A) (1) 分担者)
2. A. 国立国語研究所報告 97-4「方言文法全国地図」4 大蔵省印刷局 1999年3月
- B. 「九州中核都市におけるパーセントグロットグラム調査」「資料編」
「九州におけるネオ方言の実態」科研費研究成果報告書 1998年3月
- E. 「国立国語研究所の方言研究の概要」
国立国語研究所創立 50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
- F. “Language Problems in Present-day Japanese Society.”
Rocky Mountain/Southwest Japan Seminar University of Utah 1998年5月
4. ア. NHK記録事業「ふるさと日本のことば」推進委員
- イ. 国語学会庶務委員長
日本方言研究会世話人
5. 毎日中学生新聞 連載「話しことばが教室へ」(1～111回)
荒川区成人講座講師
テレビ朝日「スーパーJチャンネル」出演

大西拓一郎 (第1研究室室長)

1.
 - ・方言文法・表現法地図作成のための研究
 - ・方言文法の記述とその通時的解釈に関する基礎的研究
 - ・全国方言の文法的対応の研究 (科学研究費 奨励研究 (A) 代表者)
 - ・文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究
(科学研究費 基盤研究 (B) 分担者)
 2. A. 国立国語研究所報告 97-4「方言文法全国地図」4 大蔵省印刷局 1999年3月
「全国方言の文法的対応の研究」(科研費報告書) 国立国語研究所
1999年3月
 - C. 「動詞活用の対応と比較」『月刊言語』27-7 大修館書店 1998年7月
 - E. 「文法地図の課題と将来
一サ変動詞「する」の東北方言における分布と解釈をめぐって一」
国立国語研究所創立 50周年記念研究発表会 1998年12月
「『方言文法全国地図』ができるまで
一調査報告カードから地図までの道のり一」(共同発表)
国立国語研究所創立 50周年記念研究発表会 1998年12月
 4. イ. 日本方言研究会幹事
査読 国内雑誌 1件
3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

5. 「日本語はどこから来たのか(1) ー日本語の誕生と変遷ー」
荒川区成人講座 言葉の文化 荒川区生涯学習センター 1998年11月

三井はるみ (第1研究室主任研究官)

1. ・方言文法・表現法地図作成のための研究
・方言文法の記述とその通時的解釈に関する基礎的研究
・文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究
(科学研究費 基盤研究(B)(2) 研究分担者)
2. A. 国立国語研究所報告 97-4「方言文法全国地図」4 大蔵省印刷局 1999年3月
B. 「方言なんでも事典」金の星社 1998年3月
D. 「条件表現」加藤正信・遠藤仁編「宮城県中新田町方言の研究」
科研費成果報告書 1998年3月
「神奈川県」江端義夫・加藤正信・本堂寛編『全国方言一覧辞典』
学習研究社 1998年11月
E. 「方言の条件表現
ー「方言談話資料」と「方言文法全国地図」からの研究の可能性ー」
国立国語研究所 50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
「『方言文法全国地図』ができるまで
ー調査報告カードから地図までの道のりー」(共同発表)
国立国語研究所創立 50周年記念研究発表会 1998年12月
4. イ. 日本方言研究会幹事
査読 国内雑誌2件
5. 「現代日本語最前線」
荒川区教育委員会生涯学習センター成人講座「現代人のための日本語学講座」
荒川区立生涯学習センター 1998年11月
「登戸の方言」川崎市多摩区文化協会文化サロン 川崎市多摩市民館
1999年2月

中山典子 (第2研究室研究員)

1. ・明治前期英和辞書における日本語の歴史的研究
・国語辞典の編集
3. ア. 国立国語研究所創立 50周年記念事業

1. 担当研究・事業課題名(科研費も含む)
2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もとするもの B. 所員が執筆・編集した単行本 C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文 E. 口頭・ポスター発表(予稿集あり) F. 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

言語教育研究部

米田正人 (部長)

1. ・国際社会における日本語についての総合的研究 (科学研究費 創成的基礎研究)
総括班 (事務局長)
研究班1 「日本語観国際センサスの実施と行動計量学的研究」 (分担者)
2. A. 「日本語観国際センサス単純集計表 (暫定速報版)」
新プロ「日本語」総括班・研究班1 1999年3月
「災害時に使う外国人のための日本語案文
—ラジオや掲示物などに使うやさしい日本語表現—」 (新プロ「日本語」)
「災害時の日本語」研究グループ 1999年3月
「日本語観国際センサス 一国際比較で見る各国の言語観・日本語観—」
「日本語観国際センサス中国調査 報告書I」
新プロ「日本語」研究班1・中国人民大学 1999年3月
E. 「日本語観国際センサス (6) 一言語イメージの国際比較—」
日本行動計量学会第26回大会 立教大学 1998年9月
「国際社会における日本語についての総合的研究」 (共同発表)
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
F. 「調査結果の概略」日本語観国際センサス (中間報告会)
千代田放送会館 1998年9月
3. ア. 第6回国立国語研究所国際シンポジウム・新プロ「日本語」国際シンポジウム
国際連合大学国際会議場 1998年12月
第6回国立国語研究所国際シンポジウム・新プロ「日本語」国際シンポジウム
第1専門部会「東アジアにおける日本語 一日本語観国際センサスにもとづいて—」
国立国語研究所 1999年12月
イ. 新プロ「日本語」ニューズレターの編集
ウ. 新プロ「日本語」研究発表会の開催・運営
新プロ「日本語」事務局総括
4. イ. 日本行動計量学会欧文誌編集委員会委員

嶋村直己 (第1研究室室長)

1. ・教育基本語彙の活用に関する研究
・幼児・児童・生徒の言語習得の問題点に関する調査研究
2. E. 「文字習得のふしぎ」国立国語研究所創立50周年記念研究発表会
国立国語研究所 1998年12月

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

當眞千賀子（第1研究室研究員） ※平成10年6月1日採用

1. ・「グループ文章産出活動における方言と共通語の機能」に関する萌芽的分析
・米国小学校での日本人児童の「学び」：社会文化的実践への参加形態の変容に関する研究（科学研究費 特別研究員奨励費 代表者）
2. C. 「談話と権力」『月刊言語』 大修館書店 1999年1月
E. 「社会文化的アプローチにおけるマルチメソッドの重要性」
日本心理学会大会シンポジウム 東京 1998年10月
「ヴィゴツキアンアプローチの現在」日本教育心理学会大会シンポジウム
函館 1998年7月
「グループ文章算出活動における方言と共通語の機能」（共同発表）
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
F. 「米国小学校での日本人児童の「学び」」北海道大学教育学部で講演
1998年7月
「社会文化的アプローチの現在」名古屋大学教育学部で講演 1999年2月
「文化的学びの場としての学校実践」名古屋大学教育学部で講演 1999年2月
4. ア. 東京学芸大学海外帰国子女センター 研究プロジェクト委員
イ. 査読 国内雑誌1件 国際雑誌1件

小高京子（第1研究室研究員）

1. ・音声コミュニケーションの現状と問題点に関する調査研究
・国際社会における日本語についての総合的研究（科学研究費 創成的基礎研究）
研究班3 音声言語の韻律特徴に関する実験的研究（協力者）
・米国小学校での日本人児童の「学び」：社会文化的実践への参加形態の変容に関する研究（科学研究費 特別研究員奨励費 協力者）
2. A. 「東京語アクセントの聞き取りテスト
—21言語グループの母語別成績別正答率—」（共著）
『新プロ「日本語」研究論文集』1 国立国語研究所 1998年8月
「東京外国語大学学部留学生の東京語アクセント習得」（共著）
『新プロ「日本語」ESOP平成10年度成果報告書』 国立国語研究所
1999年3月
D. 「東京外国語大学における日本語学習者の東京語アクセント習得」（共著）
『日本研究教育年報』3 東京外国語大学日本課程 1999年3月
E. 「グループ文章産出活動における方言と共通語の機能」（共同発表）
国立国語研究所創立50周年記念発表会 国語研究所 1999年12月
3. ア. 国立国語研究所創立50周年記念事業

1. 担当研究・事業課題名（科研費も含む）
2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もととするもの B. 所員が執筆・編集した単行本 C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文 E. 口頭・ポスター発表（予稿集あり） F. 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

情報資料研究部

熊谷康雄（第1研究室室長・第2研究室兼任）

1.
 - ・社会言語学的研究情報の運用に関する基礎的研究
 - ・図書館情報システムの構築
 - ・言語情報資料緊急整備
 - ・国語学研究文献総索引データの整備・保守・公開（国語学会との共同事業）
2. A. “An Introduction to the National Language Research Institute: A Sketch of Its Achievements (Fourth Edition)”（共編） 国立国語研究所 1999年3月
- C. 「第5回国立国語研究所国際シンポジウム（第4専門部会報告）
テーマ：ネットワークと電子メディアを利用した研究交流の現状と可能性
—中国における日本・日本語研究の場合—」『日本語科学』3 国立国語研究所 1998年4月
- D. 「研究文献CD-ROMの作成と日本語研究情報の電子化」
『情報ネットワーク時代と日本研究 国際学術研究会論文集（ISBN 7-5607-1982-1）』
山東大学出版会（中国山東省） 1999年1月
「日本語研究文献情報の蓄積とシステム化」
『情報ネットワーク時代と日本研究 国際学術研究会論文集（ISBN 7-5607-1982-1）』
山東大学出版会（中国山東省） 1999年1月
- E. 「『日本言語地図 第3集』のネットワークによる地点間類似度表示と地形・人口分布情報との重ね合わせ」日本方言研究会第66回研究発表会 1998年5月
「研究情報・資料の蓄積と利用のためのシステム
—国立国語研究所 研究情報資料データベース—」（共同発表）
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
3. ウ. ネットワーク管理・運営
国立国語研究所ホームページの作成・管理・運営
所内ネットワークユーザのサポート
文献情報システム：図書館情報システムの管理運営
国語年鑑編集出版システムの開発，データ処理
4. ウ. 専修大学文学部 非常勤講師
5. 「日本語研究文献総索引」の試験公開
国語学研究文献データベースのデータ一般公開

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

池田理恵子（第1研究室研究員）

1. ・国語関係新聞記事の蓄積と活用の研究 一索引情報と本文の活用一
・国際社会における日本語についての総合的研究(科学研究費 創成的基礎研究) 研究班2 言語事象を中心とする我が国をとりまく文化摩擦の研究(分担者)
2. A. 「ビデオ刺激調査雑感」
『「国際社会における日本語についての総合的研究」研究論文集』1
文部省科学研究費(創成的基礎研究費)「国際社会における日本語についての創成的研究」研究成果刊行物 国立国語研究所 1998年10月
『「言語事象を中心とした我が国をとりまく文化摩擦の研究」ビデオ刺激による言語行動意識調査報告書資料編』(共編)
新プロ「日本語」第2班国立国語研究所チーム 国立国語研究所
1999年3月
E. 「国立国語研究所新聞記事データベース
一ことばに関する記事 1949年～現在一」(共同発表)
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
3. ア. 国立国語研究所創立50周年記念事業
4. イ. 社会言語科学会事業委員会委員
第12回国際応用言語学会世界大会(東京)組織委員会イベント委員会委員

辻野都喜江（第1研究室研究員）

1. ・国語関係新聞記事の蓄積と活用の研究 一索引情報と本文の活用一
2. E. 「国立国語研究所新聞記事データベース
一ことばに関する記事 1949年～現在一」(共同発表)
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月

伊藤雅光（第2研究室室長）

1. ・文献情報の収集・整理法に関する研究
一収集・編集システムの高度化・効率化に関する研究一
2. A. 「国語年鑑 1998年版」大日本図書 1998年12月
C. 「ユーミンの言語学(10)～(24)」『日本語学』17-1～18-3 明治書院
1998年1月～1999年3月
「ルードウィヒ・ワイトゲンシュタイン著；中村昇・瀬嶋貞徳訳『色彩について』新書館 1997」『日本語学』17-4 明治書院 1998年4月
「青葉ことばの会編『日本語研究法【古代語編】』おうふう 1998」『日本語学』17-10 明治書院 1998年10月
E. 「色彩語の『出現順序』と色彩語彙の『量的特徴』との関係」
語彙・辞書研究会第13回研究発表会 三省堂文化会館 1998年6月
「文献データベースと『国語年鑑』」(共同発表)
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
4. イ. 計量国語学会委員・庶務主任
査読 国内雑誌3件

1. 担当研究・事業課題名(科研費も含む)

2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もとするもの B. 所員が執筆・編集した単行本 C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文 E. 口頭・ポスター発表(予稿集あり) F. 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

ウ. 埼玉大学大学院文化科学研究科 非常勤講師

5. 「パソコンが作るポピュラーソング —ユーミン編」
 東京外国語大学外国語学部言語情報講座日本課程「口頭表現」講演
 東京外国語大学外国語学部言語情報講座 1998年10月
 「疑似ユーミン・ソング - 人とパソコンにできること」『単眼複眼』 朝日新聞
 1999年1月13日・夕刊
 「文体模倣から創造性を探る」『顔』 読売新聞 1999年2月12日・朝刊
 「コンピュータで言葉について研究 - ユーミンの流行歌量産プログラムも」
 「人・仕事・人生」 教育家庭新聞・マルチメディア特集号
 1999年3月6日
 「ユーミンの文体模倣 - 創作の秘密を探る」東京新聞 1999年3月26日・夕刊

新野直哉 (第2研究室主任研究官)

1. ・文献情報の収集・整理法に関する研究
 —収集・編集システムの高度化・効率化に関する研究—
2. A. 「国語年鑑」1998年版 大日本図書 1998年12月
 E. 「文献情報データベースと『国語年鑑』」(共同発表)
 国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
 F. 「“全然”+肯定」研究に関する近年の文献について」青葉ことばの会
 国立国語研究所 1998年4月
 「“いやがうえにも”考」青葉ことばの会 明星大研修所 1998年9月

井上文子 (第2研究室主任研究官)

1. ・方言録音文字化資料に関する研究
 ・方言文法・表現法地図作成のための研究
 ・方言文法の記述とその通時的解釈に関する基礎的研究
 ・「全国方言談話資料データベース」に基づく方言文法の研究と検証調査
 (科学研究費 基盤研究(C) 代表者)
 ・関西圏における「ネオ方言」談話の収集(科学研究費 萌芽的研究 分担者)
 ・文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究
 (科学研究費 基盤研究(B) 分担者)
 ・全国方言談話資料データベース
 (科学研究費 研究成果公開促進費データベース 分担者)
2. A. 国立国語研究所報告97-4「方言文法全国地図」4 大蔵省印刷局 1999年3月
 B. 「日本語方言アスペクトの動態 —存在型表現形式に焦点をあてて—」秋山書店
 1998年12月
 「関西・若年層における談話データ集」(共編)
 (平成9-10年度科学研究費補助金(萌芽的研究)研究成果報告書)
 大阪大学文学部 真田信治 1999年3月
 E. 「方言録音・文字化資料に関する研究」
 国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
3. ア. 第6回国立国語研究所国際シンポジウム・新プロ「日本語」国際シンポジウム企画・運営
 イ. 「日本語科学」
 ウ. 図書館業務
3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
 4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

4. イ. 国語学会庶務委員
日本方言研究会幹事

齋藤達哉（第2研究室研究員） ※平成10年10月1日採用

1. ・文献情報の収集・整理法に関する研究
—収集・編集システムの高度化・効率化に関する研究—
2. A. 『国語年鑑』1998年版 大日本図書 1998年12月
E. 「文献情報データベースと『国語年鑑』」（共同発表）
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
C. 「混効験集用語攷」『沖縄文化』34-1 沖縄文化協会 1998年11月

磯部よし子（第2研究室研究員）

1. ・社会言語学的研究情報の運用に関する基礎的研究
・言語情報資料緊急整備
2. A. “An Introduction to the National Language Research Institute: A Sketch of Its Achievements (Fourth Edition)”（共編）国立国語研究所 1999年3月
E. 「研究情報・資料の蓄積と利用のためのシステム—国立国語研究所 研究情報資料データベース—」（共同発表）
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月

斎藤秀紀（電子計算機システム開発研究室室長）

1. ・大量日本語データの蓄積と検索に関する基礎的研究
・インターネットにおける学術漢字の符号化に関する研究
（科学研究費 特定領域「人文科学とコンピュータ」代表者）
・国際社会における日本語についての総合的研究（科学研究費 創成的基礎研究）
研究班4「情報発信のための言語資源の整備」（分担者）
・電子計算機の運用管理
2. C. 「漢字の属性情報に対する符号化法の提案」『計量国語学』21-4 計量国語学会 1998年
E. 「国際社会における日本語についての総合的研究」『国際社会における日本語についての総合的研究研究論文集』1 1998年10月
「インターネットにおける学術漢字の符号化に関する研究」（共著）
文部省科学研究費・重点領域研究(1)「人文科学とコンピュータ」
CD-ROM版 1999年3月
4. イ. 情報処理学会情報規格調査会「文字コード標準体系専門委員会」委員
ウ. 東京電機大学工学部（二部）情報工学科 非常勤講師

1. 担当研究・事業課題名（科研費も含む）
2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もとするもの B. 所員が執筆・編集した単行本 C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文 E. 口頭・ポスター発表（予稿集あり） F. 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

横山詔一（電子計算機システム開発研究室主任研究官）

1.
 - ・大量日本語データのデータベース構築に関する研究
 - ・国際社会における日本語についての総合的研究(科学研究費 創成的基礎研究) 研究班3 日本語表記・音声に関する実験言語学的研究(分担者)
 - ・インターネットにおける学術漢字の符号化に関する基礎的研究(科学研究費 特定研究 分担者)
 - ・海外日本語学習リソース提供システムの実験研究(科学研究費 国際学術研究 分担者)
2. A. 「新聞電子媒体を対象にした漢字調査」(共著)『日本語表記に関する認知科学と心理言語学の融合的研究』新プロ「日本語」研究班3・文字言語チーム編 国立国語研究所 1999年3月
- B. 「新聞電子メディアの漢字 一朝日新聞 CD-ROM による漢字頻度表一」国立国語研究所プロジェクト選書No1(共編著) 三省堂 1998年7月
- C. 「『朝日新聞』の CD-ROM と紙面における幽霊文字と辞書非掲載漢字一「JIS X0208」の漢字を中心に一」(共著)『計量国語学』21巻4号 計量国語学会 1998年3月
- 「テキストデータベースに対応した KWIC 作成システムの開発」(共著)『日本教育工学会誌』22巻増刊号 日本教育工学会 1998年8月
- 「異体字選択に影響する要因」(共著)『計量国語学』21巻7号 計量国語学会 1998年12月
- 「新聞記事データベースにおける「槓」の消失現象」(共著)『人文学と情報処理』第20号 勉誠出版 1999年3月
- E. 「異体字選択に影響する要因の分析」(共同発表)社会言語科学会第1回大会 学習院大学 1998年1月
- 「異体字に対する「好み」と「なじみ」の相関関係」(共同発表)シンポジウム人文科学における数量的分析 文部省統計数理研究所 1998年3月
- 「カタカナ語使用の時代的変遷に関する数量的分析：雑誌九十種 FD 版と新聞 CD-ROM データの比較」(共同発表)シンポジウム人文科学における数量的分析 文部省統計数理研究所 1998年3月
- 「旧字体が好まれる漢字の同定」(共同発表)シンポジウム人文科学における数量的分析 文部省統計数理研究所 1998年3月
- “Development of a Japanese Kanji Character Frequency List.”(共同発表) Twelfth International Unicode / ISO 10646 Conference 1998年4月
- “Java Kanji Flashcard 500: Kanji, Java, and the World Wide Web.”(共同発表) Twelfth International Unicode / ISO 10646 Conference 1998年4月
- 「毎日新聞における漢字使用頻度の月次変動」(共同発表)計量国語学会第42回大会 国立国語研究所 1998年9月
- 「漢字の規範分類別に求めた平均頻度：新聞電子メディアを対象に」(共同発表)計量国語学会第42回大会 国立国語研究所 1998年9月
- 「『朝日新聞』における JIS 外漢字」(共同発表)計量国語学会第42回大会 国立国語研究所 1998年9月
- 「新聞電子メディアを用いたカタカナ語の使用実態調査」(共同発表)日本行動計量学会第26回大会 立教大学 1998年9月
- 「カタカナ語使用の季節変動に関する分析」(共同発表)日本行動計量学会第26回大会 立教大学 1998年9月
- 「人間は「栓」と「檜」のいずれを好むか」(共同発表)日本心理学会第62回大会 東京学芸大学 1998年10月
- 「ファジィグラフを活用したカタカナ語の分析」(共同発表)日本心理学会第62回大会 東京学芸大学 1998年10月

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
 4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

- 3. ア. 第6回国立国語研究所国際シンポジウム
- ウ. 電子計算機システムの運営
ネットワークシステムの運営補助
新プログラム研究「日本語」研究班3事務局
- 4. イ. 査読 国内雑誌2件
- ウ. 津田塾大学英文学科 非常勤講師

米田純子（電子計算機システム開発研究室研究員）

- 1.
 - ・大量日本語データのデータベース構築に関する研究
 - ・国際社会における日本語についての総合的研究(科学研究費 創成的基礎研究)
研究班3 日本語表記・音声に関する実験言語学的研究(協力者)
 - ・インターネットにおける学術漢字の符号化に関する基礎的研究
(科学研究費 特定研究 協力者)
- 2. A. 「新聞電子媒体を対象とした漢字調査」(共著)
『日本語表記に関する認知科学と心理言語学の融合研究』 国立国語研究所
(新プロ「日本語」研究班3・文字言語チーム) 1999年3月
- C. 「『朝日新聞』のCD-ROMと紙面における幽霊文字と辞書非掲載漢字
—「JIS X 0208」の漢字を中心に—」(共著)『計量国語学』21-4
計量国語学会 1998年3月
- D. 「『幽霊文字』と『辞書非掲載字』の出現状況」(共著)
『新聞電子メディアの漢字—朝日新聞CD-ROMによる漢字頻度表—』
(国立国語研究所プロジェクト選書No1)三省堂 1998年7月
- 3. ア. 第6回国立国語研究所国際シンポジウム
- ウ. 電子計算機システムの運営
ネットワークシステムの運営補助
「日本語観国際センサス単純集計表(暫定速報版)」におけるプログラム作成協
力
多言語間の情報交換を統一的行うための構造化4バイトコードの研究(新プロ
「日本語」研究班4)におけるプログラム作成担当
新プロ「日本語」研究班3・文字言語チーム事務局

1. 担当研究・事業課題名(科研費も含む)

2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もととするもの B. 所員が執筆・編集した単行本 C. 学
術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文 E. 口頭・ポスター発表(予稿集
あり) F. 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

国語辞典編集室

加藤安彦（国語辞典編集室室長）

1.
 - ・基礎語の用法分類
 - ・国語辞典の編集
2. C. 「辞典とコーパス」『日本語学』17-12 明治書院 1998年12月
- E. "Modern Japanese Processing Problems -Problems of "kata-kana" appeared in loan words-" 1999 International Conference on Computer Processing of Oriental Languages (ICCPOL '99) 1999年3月
- 「用例データベース作成のための単位と用例データベースの使い方」
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
- 「国語辞典編集のための用例データベース」（共同発表）
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
3. ア. 国立国語研究所創立50周年記念事業
4. ア. 日本電子工業振興協会言語資源共有機構準備会委員・発起人
日本電子工業振興協会言語資源共有機構運営委員
- イ. 社会言語科学会事業委員
- 電子情報通信学会「言語理解とコミュニケーション」研究専門委員
- ウ. 文教大学文学部 非常勤講師

木村睦子（国語辞典編集室室長） ※平成11年3月31日停年退官

1.
 - ・基礎語の用法分類
 - ・国語辞典の編集
 - ・国際社会における日本語についての総合的研究(科学研究費 創成的基礎研究) 研究班4 情報発信のための言語資源の整備に関する研究(分担者)
2. A. 「『太陽』コーパスの漢字処理 —『太陽』1901の漢字調査—」(共著)
新プロ「日本語」研究成果刊行物 国立国語研究所 1999年2月
- E. 「国語辞典編集のための用例データベース」
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
- 「国語辞典編集のための用例データベース」(共同発表)
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
3. イ. 「国立国語研究所創立50周年記念誌」記念座談会「国語辞典編集室のこれまでと今後について」の司会・とりまとめ
4. イ. 情報処理学会山下記念研究賞審査委員
査読 国内雑誌1件

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

山田貞雄（国語辞典編集室主任研究官）

※平成11年4月1日言語変化研究部第2研究室主任研究官から配置換

1. ・明治前期英和辞書における日本語の歴史的研究
2. E. 「日本語の歴史的研究 一対訳辞書の訳語に見る近代日本語のすがた一」
（共同発表） 国立国語研究所創立 50 周年記念研究発表会 国立国語研究所
1998 年 12 月
5. イ. 査読 国内雑誌 1 件
6. 富山県富山市立図書館 山田孝雄文庫設立準備

田中牧郎（国語辞典編集室主任研究官）

1. ・基礎語の用法分類
・国語辞典の編集
・国際社会における日本語についての総合的研究(科学研究費 創成的基礎研究)
研究班 4 情報発信のための言語資源の整備に関する研究 (分担者)
・統語情報の分析に基づく古代情意述語の意味用法の研究
(科学研究費 奨励研究 (A) 代表者)
2. A. 「『太陽』コーパスの漢字処理 一『太陽』1901 の漢字調査一」(共著)
新プロ「日本語」研究成果刊行物 国立国語研究所 1999 年 2 月
C. 「今昔物語集の情意述語文と文体」『国語学』194 国語学会 1998 年 9 月
「繁シ・繁ルの意味分析 一万葉集・八代集を資料として」『玉藻』34
フェリス女学院大学国文学会 1998 年 9 月
D. 「欲シ・欲ルの意味分析 一惜シとの対照を通して一」
佐藤武義編『萬葉集の世界とその展開』 白帝社 1998 年 4 月
「惜シの意味変化 一万葉集から八代集へ」
佐藤喜代治編『国語論究 7 中古語の研究』 明治書院 1998 年 12 月
E. 「『太陽』コーパスの作成」国立国語研究所創立 50 周年記念研究発表会
国立国語研究所 1998 年 12 月
「国語辞典編集のための用例データベース」(共同発表)
国立国語研究所創立 50 周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998 年 12 月
3. イ. 「日本語科学」
4. イ. 査読 国内雑誌 2 件
ウ. 上越教育大学 非常勤講師
5. 「日本語はどこから来たか 日本語表記の歴史 (漢字・かな・カタカナ)」
現代人のための日本語学講座講演 荒川区立生涯学習センター 1998 年 11 月

1. 担当研究・事業課題名 (科研費も含む)
2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もととするもの B. 所員が執筆・編集した単行本 C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文 E. 口頭・ポスター発表 (予稿集あり) F. 口頭・ポスター発表 (予稿集なし)

小椋秀樹（国語辞典編集室研究員） ※平成10年10月1日採用

1. ・基礎語の用法分類
 ・国語辞典の編集
2. C. 「書簡文研究資料としての明治期往来物」『論究日本文学』69
 立命館大学日本文学会 1998年12月
 E. 「国語辞典編集のための用例データベース」（共同発表）
 国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
3. イ. 『国立国語研究所創立50周年記念誌』

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

日本語教育センター

中野洋（センター長） ※平成11年12月21日死去

※以下の情報は、本書の作成にあたり、当委員会が収集したものである。

しかし、諸般の事情により、必ずしもすべての情報を収集することはできなかった。

1.
 - ・日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成
 - ・国際社会における日本語についての総合的研究(科学研究費 創成的基礎研究) 研究班3 日本語表記・音声の実験言語的研究(分担者)
2. A. 「日中作文コーパス」(第1版)(共編)(新プロ「日本語」) 国立国語研究所 1998年6月
「中日作文に見られる母語の影響」(共著)『新プロ「日本語」研究論文集』1 国立国語研究所 1998年8月
国立国語研究所研究報告115「テレビ放送の語彙調査Ⅲ 一計量的分析一」 大日本図書 1999年3月
「添削付き「日中作文コーパス」について」
「日中作文コーパスの作成とその利用 一論文とデータ一」(新プロ「日本語」) 国立国語研究所 1999年3月
B. 岩波講座「言語の科学」9「言語情報処理」(共著) 岩波書店 1998年2月
「新しい日本語研究を学ぶ人のために」(共著) 世界思想社 1998年10月
E. 「日本語語彙の統計的性質 一異なる語彙調査資料を用いて一」 国立国語研究所50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
3. ア. 国立国語研究所創立50周年記念事業
イ. 「国立国語研究所創立50周年記念研究発表会資料集」
「国立国語研究所創立50周年記念誌」
4. イ. 言語処理学会理事・会誌編集委員

熊谷智子（第2研究室室長） ※平成11年10月1日日本語教育センター第1研究室室長から配置換

1.
 - ・日本語の対象言語学的研究
一言語行動におけるストラテジーの展開構造に関する研究一
 - ・日本人の話しことばに関する総合的研究
 - ・国際社会における日本語についての総合的研究(科学研究費 創成的基礎研究) 研究班2 言語事象を中心とした我が国をとりまく文化摩擦の研究(協力者)
2. A. 「「言語事象を中心とした我が国をとりまく文化摩擦の研究」ビデオ刺激による言語行動意識調査報告書資料編」(共編)
新プロ「日本語」第2班国立国語研究所チーム 国立国語研究所 1999年3月
C. 「発話単位タグ標準化案の作成」(共著)『人工知能学会誌』14-2 人工知能学会 1999年3月
E. 「談話タグ標準化の現状」(共同発表) 人工知能学会 第21回 言語・音声理解と対話処理研究会 早稲田大学 1998年2月
「依頼の言語行動におけるストラテジーの展開構造」 国立国語研究所50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
「談話タグの標準化 一データの共有に向けた試み一」 第3回社会言語科学会研究大会 日本女子大学 1999年1月

1. 担当研究・事業課題名(科研費も含む)
2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もとするもの B. 所員が執筆・編集した単行本 C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文 E. 口頭・ポスター発表(予稿集あり) F. 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

- F. 「ビデオ刺激による言語行動意識調査から —あいまいな断りの場面—」
創成的基礎研究費「日本語」第5回研究報告会 国立国語研究所
1998年3月
「談話タグ標準化の試み」(共同発表)
公開講演会「話しことば研究の方法を求めて」 国立国語研究所
1998年3月
「Standardising Annotation Schemes for Japanese Discourse」(共同発表)
The 1st International Conference on Language Resources and Evaluation (European
Language Resources Association) グラナダ(スペイン) 1998年5月
「談話の分析 —言語研究の立場から—」
電子工業振興協会対話処理技術専門委員会 1998年12月
3. イ. 「日本語科学」
ウ. 日本語教育センター運営委員会の開催・運営
4. 人工知能学会 談話タグ・対話コーパスワーキンググループ
日本語教育学会による研修プログラム講師
査読 国内雑誌2件 海外雑誌1件

藤井聖子(第2研究室・併任) ※平成10年4月1日採用

※平成11年10月1日日本語教育センター第2研究室室長から配置換

1. ・日本語と英語との対照言語学的研究 —会話スタイルの分析—
・日西対照研究 —動詞とその周辺—
・日本人とブラジル人との接触場面
・日本語とフランス語の音声
2. A. 「日本語とポルトガル語との対照研究：日本人とブラジル人との接触場面 中間
報告書」国立国語研究所 1998年7月
「日西対照研究 —動詞とその周辺—中間報告書」国立国語研究所 1998年9月
C. Review of "Kanji Politics: Language Policy and Japanese Script" by Nanette Gottlieb,
Studies in the Linguistic Sciences Volume 19 Number 1 (Spring 1999) 1999年3月
D. 「What can "things" ("mono") do for propositional attitudes in Japanese discourse」
In J. Verschueren (Ed.) Pragmatics in 1998: Selected Papers from the Sixth
International Pragmatics Conference 1999年1月
E. 「日本語と欧米諸言語との対照研究：英語・スペイン語・ポルトガル語・フラン
ス語」(共同発表) 国立国語研究所創立50周年記念研究発表会
国立国語研究所 1998年12月
「What can "things" ("mono") do for propositional attitudes in Japanese discourse」
第6回国際語用論学会 フランス Reims 1998年7月
3. ア. 「日西対照研究 —動詞とその周辺—」研究会 1998年8月
「日本人とブラジル人との接触場面」研究会 1998年9月
「日本人とブラジル人との接触場面」研究会 1999年3月
イ. 「日本語科学」
4. イ. 査読 国内雑誌2件 海外出版社・著書1件

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支
援 4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

井上優（第4研究室主任研究官）

1. ・言語表現の意味・機能の普遍性と多様性に関する研究
 ・文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究
 （科学研究費 基盤研究（B） 代表者）
2. B. 「言葉に関する問答集(新ことばシリーズ10) 一意味の似た言葉一」(共著)
 文化庁 1999年3月
- C. 「日本語と中国語の省略疑問文「 α ハ?」「 α ne?」『国語学』196 国語学会
 1998年3月
 「方言の終助詞の意味を考える」『月刊言語』27-5 大修館書店 1998年5月
 「富山県砺波方言の終助詞「ジャ」の意味記述」『日本語科学』4
 国立国語研究所 1998年10月
- E. 「富山県砺波方言の終助詞「ジャ」の意味記述」
 日本方言研究会第66回研究発表会 白百合女子大学 1998年5月
 「名詞述語の動詞性・形容詞性について 一日本語と朝鮮語一」(共同発表)
 筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト朝鮮語シンポジウム
 筑波大学 1998年7月
 「過去形の発見用法について 一日本語と朝鮮語一」
 国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
3. イ. 「日本語科学」
4. イ. 国語学会庶務委員
 ウ. 神田外語大学 非常勤講師

1. 担当研究・事業課題名（科研費も含む）

2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もとするもの B. 所員が執筆・編集した単行本 C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文 E. 口頭・ポスター発表（予稿集あり） F. 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

日本語教育指導普及部

佐々木倫子（部長）

1.
 - ・日本語コミュニケーション能力に関する国際共同研究
 - ・第二言語による簡略達意な日本語コミュニケーションの研究
 - ・日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成
 - ・日本語教育文献索引の作成及び情報収集のための講演会等の開催
 - ・国際社会における日本語についての総合的研究(科学研究費 創成的基礎研究) 研究班2 言語事象を中心とする我が国をとりまく文化摩擦の研究(協力者)
2. A. 「"Watch where you're going!"の周辺 一在日米国人・在米日本人調査から一」
 【新プロ「日本語」研究論文集】1 国立国語研究所 1998年8月
- C. 「これからの国語教育 一日本語教育の立場から一」【日本語学】17-2 明治書院
 1998年1月
 「言語の対照研究と言語教育」【日本語科学】3 国立国語研究所 1998年4月
 「英語の呼びかけ 一名前・略称・愛称一」【日本語学】8月号 明治書院
 1998年8月
- D. 「書評：Japanese for College Students」【ICU日本語教育研究センター紀要】7
 国際基督教大学日本語教育研究センター 1998年3月
 「教材・授業形式について 一諸外国における「日本事情」教育についての基礎的調査研究」
 「諸外国における「日本事情」教育についての基礎的調査研究」1995年度～1997年度科学研究費補助金研究成果報告書 1998年3月
 「O Ensino da Lingua e da Cultura Japonesa: O que Indicam as pesquisas no Brasil, no Havai e na Oceania」【Anais do IX Encontro Nacional de Professores Universitarios de Lingua, Literatura e Cultura Japonesa I Encontro Latino-Ajmericano】
 Universidade Estadual Paulista Faculdade de Ciencias e Letras - Assis 1998年8月
 「言語教育の課題 一口頭能力育成の日米対照から一」【玉藻】34
 フェリス女学院大学国文学会 1998年9月
- E. 「日本語教育と文化教育
 一ブラジル・ハワイ・オセアニア調査が示唆するもの一」
 第9回全ブラジルおよび第1回ラテンアメリカ日本語・日本文学・日本文化学会
 ブラジル・アシス・パウリスタ大学アシス校 1998年8月
- F. 「Mitigation in English essays of Japanese learners」(共同発表)
 TESOL'98 (英語非母語話者のための英語教育大会)
 米国シアトル市国際会議場 1998年3月
 「中南米の日本語教育の独自性
 一ベレーンおよびハワイでの日本語授業の観察をもとに一」
 第3回海外日系子弟日本語教育研究会 海外日系人協会 1998年11月
4. ア. 今後の日本語教育施策の推進に関する調査研究協力者会議委員
 国際教育振興協会専門委員
 (財)アジア福祉教育財団難民事業本部 難民日本語学習援助委員会委員
- イ. 日本語教育学会 常任理事・新日本語教育事典編集委員
- ウ. フェリス女学院大学文学部 非常勤講師
 島根大学人文学部 非常勤講師
5. 「対照言語論」自治体国際化協会 1999年2月
 「地域における日本語教育ボランティアに求められるもの」
 (財)アジア福祉教育財団難民事業本部 1999年2月

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
 4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

石井恵理子（日本語教育推進企画研究官）

1.
 - ・児童生徒に対する日本語教育のカリキュラムに関する国際的研究
 - ・日本語教育研修の内容と方法に関する研究
 - ・日本語教育研修
 - ・教室における異文化間コミュニケーションの評価に関する研究」
（科学研究費 基盤研究（C）（2）代表者）
 - ・専門分野別漢字語彙教材データベース開発に関する研究」
（科学研究費 基盤研究（B）（1）分担者）
 - ・国際社会における日本語についての総合的研究（科学研究費 創成的基礎研究）
研究班2 言語事象を中心とする我が国をとりまく文化摩擦の研究（協力者）
 - ・海外日本語学習リソース提供システムの実験研究（国際学術研究 分担者）
2. A. 「シンポジウム：乳幼児を抱えた在住外国人の日本語学習の問題点をさぐる」
国立国語研究所 1998年3月
- B. 「外国人の日本語学習と地域のかかわり」国立国語研究所 1998年3月
- B. 「日本語教育重要用語1000」（共監修）パベルプレス 1998年2月
文化庁委嘱事業山形市地域日本語教育推進事業最終報告書『日本語支援を通じた
外国人にも住みやすいまちづくりを目指して』
山形市地域日本語教育推進委員会 1998年3月
- C. 「異文化接触の場 一地域の日本語教室一」
「世界のことばをモノにするカタログ」 アルク 1998年2月
「統合学習としての日本語教育」『実践国語研究』184 明治図書 1998年4月
「非母語話者に対する漢字教育」『日本語学』17-5 明治書院 1998年4月
「新刊・寸感」『日本語学』17-7 明治書院 1998年6月
「新刊・寸感」『日本語学』17-14 明治書院 1998年12月
- D. 「衛星通信を利用した日本語教育について」
「平成10年度衛星通信を活用した日本語教育の推進」 文化庁文化部国語課
1998年3月
- E. 「児童生徒に対する言語教育」 国立国語研究所 50周年記念研究発表会
国立国語研究所 1998年12月
- F. 「日本語教育における方法論的課題 一事例研究的アプローチ」
平成10年度日本語教育科学セミナー 昭和女子大学 1998年7月
3. ア. 日本語教育長期専門研修，日本語教育相互研修ネットワーク，日本語教育特別集
中研修の企画，運営，指導等
- イ. 「日本語教育論集」15
4. ウ. 学習院大学 非常勤講師
国際交流基金 平成10年度日本語教育西欧巡回セミナー ドイツ，イタリア，
スイス
5. 「親と子に対する地域の日本語学習支援」
文部省委託事業つくば市「親と子のための地域日本語適応教室推進事業」
日本語ボランティアのための講習会 つくば市 1998年2月
「外国人子女等への日本語指導の在り方」
平成10年度帰国子女等教育担当教員研修講座 群馬県教育委員会
群馬県総合教育センター 1998年6月
「今後の国際理解教育」平成10年度国際理解教育研究協議会
埼玉県教育委員会 1998年10月
「衛星通信を活用した音声教育」
平成10年度文化庁「日本語教育通信衛星講座」ファシリテータ
文化庁文化部国語課 1998年10月

1. 担当研究・事業課題名（科研費も含む）

2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もとするもの B. 所員が執筆・編集した単行本 C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文 E. 口頭・ポスター発表（予稿集あり） F. 口頭・ポスター発表（予稿集なし）

柳澤好昭（日本語教育研修室室長）

1. ・日本語教育研修の内容と方法に関する研究
・日本語教育研修
2. B. 「日本語教育重要用語1000」(共編著) バベル・プレス 1998年1月
4. ア. (社)日本語教育学会調査研究委員会委員長
高校日本語教育研究会主宰

ロラン・マリージョゼ（日本語教育研修室研究員）

1. ・グローバル・コミュニケーションに関する研究
・日本語教育研修
・日本語教育へコミュニケーション能動的受容理論の導入に関する研究
(科学研究費 奨励研究(A) 代表者)
2. C. "Communication et langage: la gestion d'une entreprise japonaise en contexte pluriethnique"
(コミュニケーションと言語: 多民族的概念における日本企業の運営)
Program, 14th World Congress of Sociology Montreal 1998年7月
- E. 「コミュニケーションについて考える」
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
- F. "Communicational Skills in Highly Advanced Intercultural Learners: The Conclusion" (異文化学習上級者のコミュニケーション・スキル: 結論) 3rd Intercultural Communication Conference Joint Centre for Asia Pacific Communication Research Montréal 1998年1月
- "Communication and Apprenticeship in Japanese Language Education" (日本語教育におけるコミュニケーションと習得) 4th Pacific Area Communication Studies Conference Université du Québec à Montréal Montreal 1998年1月
- "Intercultural Communication and Japanese Language Acquisition" (異文化間コミュニケーションと日本語習得) Naha Tsushingakko Naha 1998年3月
- "Intercultural Communication inside the Multicultural Workplace" (多文化的職場における文化間コミュニケーション) Matsushita Group Taipei 1998年5月
- "Diversity as a Resource" (人材としての多様性) National University of Seoul 1998年6月
- "Active Reception Theory and Language Education: New Theoretical Insights" (能動的受容理論と言語教育: 新しい理論的洞察) 6th Intercultural Communication and Sociolinguistics Conference Université Laval Quebec City 1998年8月
- "Global Communication Perspective in Japanese Language Education: Problems for the Future" (日本語教育におけるグローバル・コミュニケーションの展望: 将来の問題) 9th Asia-Pacific Communication Conference Joint Centre for Asia Pacific Communication Research Montréal 1998年8月
- "Managing Across Cultures" (異文化間経営) Matsushita Group Kuala Lumpur 1999年1月
- "Think Communication inside the Multicultural Workplace" (多文化的職場におけるコミュニケーションを考える) Matsushita Group Kuala Lumpur 1999年1月
- "Approaching/Achieving Pluralism: Diversity as a Resource or Managers Understanding of Their Work and Communication Practices in a Multicultural Context" (社会的多元性への準備と達成、リソースとしての多様性あるいは多文化背景におけるマネージャーのコミュニケーションの実践と仕事) Matsushita Group Kuala Lumpur 1999年1月

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

3. ア. グローバル・コミュニケーションに関する研究会 (10回)
4. ア. Joint Centre for Asia Pacific Communication Research 科学委員会委員
イ. DARUMA, Revue internationale d'etudes japonaises, フランスの科学委員会委員

杉本明子 (日本語教育研修室研究員) ※平成10年4月1日採用

1. ・日本語教育研修の内容と方法についての研究
・ディスコース・コミュニティと日本語学習の研究
・日本語教育研修
2. C. 「The effects of different styles of interaction on the learning of evolutionary theories」
Ann Arbor MI: A Bell & Howell Company 1999年2月
E. 「教育・心理学研究の潮流と日本語教育の将来への示唆
— Computer-Network-Based and Community-Based Learning Environments」
国立国語研究所創立50周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998年12月
F. 「文章産出研究の日本語教育への示唆」
日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成研究会 国立国語研究所
1998年10月
「状況に埋め込まれた学習 一個人主義的学習観から社会・文化的学習観へ」
全国語学教育学会日本語教育研究部会シンポジウム 一橋大学 1998年12月
3. イ. 「日本語教育論集」
4. イ 査読 国内雑誌6件

早田美智子 (日本語教育研修室研究員)

1. ・日本語教育文献索引の作成及び情報収集のための講演会の開催
・日本語教育関係資料の収集・提供
・国際社会における日本語についての総合的研究(科学研究費 創成的基礎研究)
研究班2 言語事象を中心とした我が国をとりまく文化摩擦の研究(協力者)
・異文化間教育の体系化に関する基礎的研究
(科学研究費 基盤研究(A)分担者)
2. A. 「在日フランス人・在仏日本人調査の周辺から」
『新プロ「日本語」研究論文集』1 国立国語研究所 1998年8月
『日本語教育学会誌・機関誌掲載論文等文献一覧 1998』 国立国語研究所
1998年12月
『「言語事象を中心とした我が国をとりまく文化摩擦の研究」ビデオ刺激による
言語行動意識調査報告書資料編』(共編)
新プロ「日本語」第2班国立国語研究所チーム 国立国語研究所
1999年3月
D. 「日本語教育研究」
『科学研究費 異文化間教育の体系化に関する基礎的研究最終報告書』
1999年3月
「日本語教育研究」
『科学研究費 異文化間教育の体系化に関する基礎的研究最終報告書(資料
編)』 1999年3月

1. 担当研究・事業課題名(科研費も含む)
2. 成果公表活動 A. 国立国語研究所を刊行もととするもの B. 所員が執筆・編集した単行本 C. 学術雑誌、商業雑誌等に掲載された論文 D. 論文集等に掲載された論文 E. 口頭・ポスター発表(予稿集あり) F. 口頭・ポスター発表(予稿集なし)

- E. 「資料室公開と文献一覧」(共同発表)
国立国語研究所創立 50 周年記念研究発表会 国立国語研究所 1998 年 12 月
 - F. 「科研費異文化間教育の体系化に関する基礎的研究研究会報告:日本語教育研究」
「異文化間教育の体系化に関する基礎的研究」研究会
龍谷大学 1998 年 11 月
3. イ. 「国立国語研究所創立 50 周年記念研究発表資料集」
「国立国語研究所創立 50 周年記念誌」
ウ. 日本語教育センター関係機関リスト作成保守

中道真木男 (日本語教育教材開発室室長)

- 1. ・日本語教育教材開発のための調査研究 一教材活用法に関する探索的研究一
・日本語教育の内容と方法についての調査研究 一視聴覚的教育手段の活用一
・日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成
・日本語モデル教材の作成 一日本語教育映像教材初級編利用方法の開発一
- 2. E. 講演「『日本語総合シラバス』の構築に向けて」
公開討論会「日本語教育のための検討課題」 1998 年 4 月

能波由佳 (日本語教育教材開発室研究員) ※平成10年4月1日採用

- 1. ・日本語教育教材開発のための調査研究 一教材活用法に関する探索的研究一
・日本語教育の内容と方法についての調査研究 一視聴覚的教育手段の活用一
・日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成
・日本語モデル教材の作成 一日本語教育映像教材初級編利用方法の開発一
- 2. E. 「映像を利用した伝達行動分析」(共同発表)
国立国語研究所創立 50 周年記念研究発表会 国立国語研究所
1998 年 12 月
F. 「理工系留学生を対象とした読解教材の開発 一専門への橋渡しを目指して一」
(共同発表)「日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成」研究会
国立国語研究所 1998 年 5 月
「『教授者の意識に関するアンケート 一日本語教育の方法と内容について一』
の結果について」日本語学習の内容と方法に関する懇談会 国立国語研究所
1999 年 3 月
- 3. ア. 国立国語研究所創立 50 周年記念事業
「日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成」公開討論会 (1) (2)
および研究会
「日本語教育映像教材初級編」検討会
日本語学習の内容と方法に関する懇談会

3. 上記以外の所内業務 ア. 研究所主催行事の企画・運営 イ. 研究所刊行物の企画・編集 ウ. 研究支援
4. 所外での活動 ア. 所外委員会 イ. 学会活動 ウ. 教育活動 5. その他

平成10年度

研究部会議・研究発表一覧

所内委員会委員一覧

見学者一覧

招へい研究員一覧

外国人研究員等受入一覧

外国出張一覧

平成10年度研究部会議・研究発表一覧

氏名	発表題目
山田貞雄	「『問題』の語史 一対訳辞書における漢語訳語の語彙史研究一」
姜錫祐 (日本学術振興会 外国人特別研究員)	「話題にのぼる上位人物に対する敬語運用 一市役所職員を対象に行われた調査結果から一」
能波由佳	「日本語教育から専門教育への『橋渡し』教育に対する試み」
吉岡泰夫	「九州中核都市におけるパーセントグロットグラム調査」
杉本明子	「文章産出研究と Research framework」
藤井聖子	「譲歩条件文法構造群の意味構造 一言語間の類似と相違一」
柏野和佳子	「IPAL 名詞辞書における多義構造の記述」
米田正人	「新プロ『日本語』・日本語観国際センサスについて」
當眞千賀子	「日本語の小学校でのグループ文章産出活動における 共主観性 (intersubjectivity) の発達」
杉戸清樹	「『メタ言語行動表現』のメカニズム」
小磯花絵	「会話インタラクションにおける話者交替現象」
中野洋	「世界の言語機関調査 中間報告」
前川喜久雄	「音声によるパラ言語情報の伝達メカニズム 一母音空間への影響と知覚の次元一」
熊谷康雄・磯部よし子	「研究情報・資料の蓄積と利用のためのシステムとその運用について」
小椋秀樹	「書簡文研究資料としての明治期往来物」
齋藤達哉	「沖縄古語の接頭辞『ミ』『オ』について 一日本古語 (国語史) との比較一」
亀山真一 (招へい研究員)	「談話研究のツールとしての文字起こしプログラムと談話データベース」
ロラン・マリージョゼ	「状況学習とコミュニケーションの視点： マレーシアにおける日本人とマレーシア人マネージャーの事例から」

平成10年度所内委員会委員一覧 (◎印：委員長 ○印：副委員長 ※印：庶務部職員)

外部評価実施委員会

◎甲斐睦朗 ○杉戸清樹 相澤正夫 加藤安彦 中野洋 中道真木男
前川喜久雄 横山詔一 吉岡泰夫 柳本巖*

移転問題検討委員会

◎甲斐睦朗 相澤正夫 江川清 小高京子 佐々木倫子 笹原宏之
杉戸清樹 杉本明子 田中牧郎 新野直哉 藤井聖子 前川喜久雄
山田貞雄 吉岡泰夫 米田正人 柳本巖* 奥出栄治* 須藤守*
木村二郎*

将来計画委員会

◎杉戸清樹 ○中道真木男 石井正彦 井上優 加藤安彦 熊谷康雄
嶋村直己 田中牧郎 塚田実知代 中野洋 前川喜久雄 三井はるみ
横山詔一 吉岡泰夫 加藤順二* 土屋良弘* 木村二郎*

国立国語研究所国際シンポジウム企画委員会

◎甲斐睦朗 相澤正夫 江川清 杉戸清樹 吉岡泰夫 米田正人
中野洋 柳本巖* 奥出栄治* 須藤守*

国立国語研究所創立50周年記念事業実施委員会

◎中野洋 相澤正夫 池田理恵子 加藤安彦 嶋村直己 杉戸清樹
中山典子 柳澤好昭 奥出栄治* 土屋良弘*

図書委員会

◎中野洋 井上文子 大西拓一郎 熊谷智子 新野直哉 早田美智子
山田貞雄 横山詔一

レクリエーション委員会

◎米田正人 石井正彦 堀江プリアー 三浦勝広* 渋谷進*

電子計算機導入検討委員会

◎江川清 熊谷康雄 前川喜久雄

ネットワーク委員会

◎江川清 熊谷康雄 前川喜久雄 柳澤好昭 山崎誠 横山詔一

研究発表資料集作成委員会

◎杉戸清樹 井上文子 井上優 當眞千賀子 中山典子 前川喜久雄
山崎誠

国立国語研究所「日本語科学」編集委員会

◎江川清 井上文子* 井上優 熊谷智子 鈴木美都代 田中牧郎
塚田実知代 藤井聖子 横山詔一

(*印：平成10年8月まで)

平成10年度所内見学者一覧

※ 以下にあげたものは、公的な依頼を受けたものである。
そのほかにも、国の内外から随時来訪者があり、関係する研究職員が対応した。

見学日	見学者
平成10年	
6月26日	警察大学校国際捜査研究所関係者 (63名)
7月29日	明海大学外国語学部日本語学科学生 および大学院応用言語学研究科学生 (25名)
8月4日	北京日本語学研究センター日本語教師研修生 および随員幹部 (25名)
10月20日	日本大学付属高校広報担当者 (教員) (20名)
平成11年	
1月19日	海外日本語教師短期研修 (冬期) 研修生 および国際交流基金日本語国際センター職員 (41名)
3月25日	大阪府立農芸高等学校英語科教諭 (1名)

平成10年度招へい研究員一覧

氏名 / 国籍	所属 / 期間
ポリー・ザトラウスキー (アメリカ合衆国)	ミネソタ大学アジアスラブ言語文学部助教授 平成10年4月1日～平成10年9月17日
亀山真一 (日本国)	ハンブルク大学言語学部ドイツ語学専攻博士課程 平成10年8月1日～平成11年3月31日
宮城紀美 (日本国)	平成10年12月24日～平成11年3月31日

平成10年度外国人研究員等受入一覧

1. 外国人研究員等（新規受入者および平成10年度在籍外国人研究員等を含む）

氏名 / 国籍	所属 / 期間
徐一平 (中華人民共和国)	北京外国語大学北京日本学研究中心教授 平成9年8月20日～平成10年8月19日
高大坤 (大韓民国)	群山大学校人文大学日語日文学科助教授 平成9年9月1日～平成10年8月31日
張建華 (中華人民共和国)	東北師範大学外国語学院日本語学部講師 平成9年10月1日～平成10年7月28日
北村貫志 (日本国)	バーミンガム大学ジャパンセンター日本語講師 平成10年2月1日～平成11年1月31日
李夏子 (大韓民国)	順天大学校人文社会科学大学日語日文学科助教授 平成10年2月28日～8月27日
垣田有紀 (日本国)	金沢工業大学工学部「組織情報システム」コア工学 研究科システム設計工学専攻教授 平成10年4月1日～平成10年6月30日
木川行央 (日本国)	姫路獨協大学外国語学部日本語学科助教授 平成10年4月1日～平成10年9月30日
山田進 (日本国)	聖心女子大学日本語日本文学科教授 平成10年4月1日～平成11年3月31日
スニー・タントン (タイ王国)	泰日経済技術振興協会講師 平成10年4月1日～平成11年2月12日
蔣垂東 (中華人民共和国)	中国福建師範大学外語学院講師 平成10年4月1日～平成11年3月31日
プレム・モトワニ (インド共和国)	ジャハラル・ネール大学教授 平成10年5月13日～平成10年7月22日
中山晶子 (日本国)	ワイカト大学(ニュージーランド)東アジア研究科講師 平成10年7月18日～平成10年10月16日
許 瑋憶 (大韓民国)	韓日言語文化研究所研究員 平成10年8月3日～平成10年9月2日
陳真 (中華人民共和国)	中国国際放送局特任教授 平成11年3月1日～平成12年2月28日

2. 日本学術振興会特別研究員

氏名 / 国籍	所属 / 期間
井内麻矢子 (日本国)	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程 平成10年4月1日～平成11年3月31日

3. 日本学術振興会外国人特別研究員

氏名 / 国籍	所属 / 期間
ピーター・ヘンドリクス (オーストラリア連邦)	オーストラリア国立大学日本センター助教授 平成10年2月16日～平成11年2月15日
姜錫祐 (大韓民国)	大阪大学大学院文学研究科博士課程日本学専攻 平成10年4月1日～平成10年8月31日

平成10年度外国出張一覧

※ 以下にあげたものは、公費による出張のみである。

氏名	用務 / 用務先 / 期間
中野洋	日本語作文教育の現状調査と作文データ収集 タイ王国、インドネシア共和国、フィリピン共和国、 マレーシア連邦 平成 10 年 8 月 17 日～平成 10 年 8 月 27 日
	日本語作文教育の現状調査と作文データ収集 大韓民国 平成 10 年 9 月 15 日～平成 10 年 9 月 18 日
江川清	「日本語観国際センサス」韓国補充調査の実施および 韓国国立国語研究院への訪問 大韓民国 平成 10 年 6 月 12 日～平成 10 年 6 月 19 日
	「日本語観国際センサス」分析の打ち合わせおよび大連におけ る日系企業等での調査実施 中華人民共和国 平成 10 年 7 月 15 日～平成 10 年 7 月 20 日
	モンゴル・中国における「日本語観国際センサス」の調査結果 分析のための打ち合わせ モンゴル人民共和国、中華人民共和国 平成 10 年 8 月 26 日～平成 10 年 8 月 31 日
	青島における補充調査および情報収集 中華人民共和国 平成 10 年 9 月 30 日～平成 10 年 10 月 3 日
	中国における「日本語観国際センサス」報告書刊行にむけた 打ち合わせと研究会の開催 中華人民共和国 平成 11 年 2 月 25 日～平成 11 年 3 月 1 日
吉岡泰夫	Japan seminar (Utah 大学) の招待講演のためおよび 社会言語学の調査・研究情報交換のため アメリカ合衆国 平成 10 年 4 月 30 日～平成 10 年 5 月 6 日
米田正人	各国市民の居住状況および言語生活の視察を行うとともに 「日本語観国際センサス」実施状況の確認 大韓民国 平成 10 年 6 月 14 日～平成 10 年 6 月 19 日

「日本語観国際センサス」分析の打ち合わせおよび大連における
日系企業等での調査実施
中華人民共和国
平成 10 年 7 月 15 日～平成 10 年 7 月 20 日

モンゴル・中国における「日本語観国際センサス」の調査結果
分析のための打ち合わせ
モンゴル人民共和国、中華人民共和国
平成 10 年 8 月 25 日～平成 10 年 8 月 31 日

青島における補充調査および情報収集
中華人民共和国
平成 10 年 9 月 30 日～平成 10 年 10 月 3 日

中国国内における「日本語観国際センサス」補充調査実施研究
の打ち合わせ
中華人民共和国
平成 10 年 10 月 8 日～平成 10 年 10 月 12 日

中国における「日本語観国際センサス」報告書刊行にむけた
打ち合わせ
中華人民共和国
平成 11 年 2 月 16 日～平成 11 年 2 月 18 日

中国における「日本語観国際センサス」報告書刊行にむけた
打ち合わせと研究会の開催
中華人民共和国
平成 11 年 2 月 24 日～平成 11 年 2 月 28 日

前川喜久雄

「ICSLP98」での口頭発表
オーストラリア連邦
平成 10 年 11 月 29 日～平成 10 年 12 月 6 日

石井恵理子

平成 10 年度西欧日本語教育巡回セミナーへの参加
ドイツ連邦共和国、イタリア共和国、スイス連邦共和国
平成 11 年 3 月 3 日～平成 11 年 3 月 16 日

ロラン・
マリージョゼ

第 14 回世界社会学会でのコミュニケーション研究結果に
関する発表
カナダ
平成 10 年 7 月 22 日～平成 10 年 7 月 31 日

平成10年度
国立国語研究所刊行物一覧

平成10年度国立国語研究所の刊行物

書名	市販品刊行元	刊行年月
国語年鑑		
「国語年鑑」1998年版	大日本図書	平成10年12月
国立国語研究所報告		
115「テレビ放送の語彙調査Ⅲ 一計量的分析一」	大日本図書	平成11年3月
97-4「方言文法全国地図」4	大蔵省印刷局	平成11年3月
日本語科学		
「日本語科学」3	国書刊行会	平成10年4月
「日本語科学」4	国書刊行会	平成10年10月
その他		
「国立国語研究所創立50周年記念研究発表会資料集」		平成10年12月
「国立国語研究所創立50周年記念誌」		平成11年3月
“An Introduction to the National Language Research Institute” 第4版		平成11年3月
その他内部資料等		
【日本語教育論集】		
「日本語教育論集」14		平成11年1月
【相互研修ネットワーク報告書一覧】		
「東海日本語ネットワーク 活動報告書」3		平成10年5月
【中間報告】		
「日本語とポルトガル語との対照研究： 日本人とブラジル人との接触場面 中間報告書」		平成10年7月
「日西対照研究 一動詞とその周辺一 中間報告書」		平成10年9月
【文献一覧】		
「日本語教育学会誌・機関誌掲載論文等文献一覧 1998」		平成10年12月

平成10年度文部省科学研究費補助金等による刊行物

※ 国立国語研究所が直接関係したもののほかに、研究所あるいは研究員がふかく関与した外部代表者によるものを含んでいる。

1. 基盤研究C

書名	刊行年月
言語生活・言語行動	
「日常談話の生成・受容における「構え」の言語行動論的研究」	平成 11 年 3 月

2. 創成的基礎研究

書名	刊行年月
語彙・文法	
「『太陽』コーパスの漢字処理 —『太陽』1901の漢字調査—」	平成 11 年 2 月
「北米日系人社会と日本語新聞」	平成 11 年 3 月
「日本語表記に関する認知科学と心理言語学の融合研究」	平成 11 年 3 月
言語生活・言語行動	
「日本語社会における言語行動の多様性」	平成 11 年 3 月
「ビデオ刺激による言語行動意識調査報告書資料編」	平成 11 年 3 月
音声・音韻	
「放送通訳の聞きやすい速度の研究 ～ビデオ調査による視聴者の反応～」	平成 11 年 2 月
「ニュースの英語放送通訳に関する調査報告書 —在日外国人にどう受けとめられているか—」	平成 11 年 2 月
情報・データベース	
「日中作文コーパス」(第1版)	平成 10 年 6 月
「日本語観国際センサス中間データ集」	平成 10 年 12 月
「第6回国立国語研究所国際シンポジウム・新プロ「日本語」国際シンポジウム 第2専門部会発表論文集 —言語が第二言語作文におよぼす影響について—」	平成 10 年 12 月
「日本語観国際センサス単純集計表 (暫定速報版)」	平成 11 年 3 月
「長野オリンピックがもたらす国際化のアセスメント」	平成 11 年 3 月

【日中作文コーパスの作成とその利用 ー論文とデーター】 平成 11 年 3 月

【多言語間の情報交換を統一的行うための構造化 4 バイトコードの研究】
平成 11 年 3 月

その他

【国語教育と日本語教育の総合的研究】 平成 10 年 6 月

【「国際社会における日本語についての総合的研究」研究論文集】 1 平成 10 年 8 月

【災害時に使う外国人のための日本語案文
ーラジオや掲示物などに使うやさしい日本語表現ー】 平成 11 年 3 月

【平成 10 年度研究成果報告書】 平成 11 年 3 月

【世界の言語問題】 4 平成 11 年 3 月

【国立国語研究所研究活動一覽】
作成委員会

杉戸清樹

大西拓一郎
小椋秀樹
小沼悦
當眞千賀子
中山典子
山崎誠

国立国語研究所研究活動一覽（平成 10 年度）

Annual Report of Research Activities
The National Language Research Institute
April 1998 - March 1999

平成 12 年 3 月 31 日 発行

編集：【国立国語研究所研究活動一覽】
作成委員会

発行：国立国語研究所
〒 115-8620 東京都北区西が丘 3-9-14
電話：03(3900)3111（代表）
FAX：03(3906)3530
URL：http://www.kokken.go.jp

（平 11-19）